



発行所
燎原社

〒606 京都市左京区
東竹屋町・川端東入る
部落問題研究所内
電話 京都761-2141番
振替口座京都 6-15762番

発行人
木村 京太郎
1部 200円(元共)
年 2,000円(元共)

本会世話人

山田幸次さん逝く

(1)

京都の民主運動史を語る会の発足当初からの世話人であり、「燎原」の編集に全力をあげてこられた井垣さんが逝かれて丁度四ヶ月後の十月十二日、共に歩んでこられた

山田幸次さんが七十才でその生涯を閉じられました。痛恨の極みであり、まずもって心から御冥福をお祈りしてやみません。

山田さんは岡山市に生れ、京都府立一中から三高、京大文学部でフランス文学を学びつつ学生運動に参加、昭和十三年から全国漁業協同組合連合会、全国農業会など農林漁業の全國組織に勤務する一方、戦後労働組合の結成に参加、昭和二十三年京都市役所に入り昭和二十四年から京都市職員組合や自治労の京都府連の委員長をつとめ、昭和三十四年から日本共産党の京都市会議員として五期、二十年にわたり民主府市政の発展と市民の生活を守る為、日夜努力を重ねてこられました。その後は病魔と斗いつつ日中友好協会や平和と民主主義を守る懇談会の活動につくしてこられました。

(2) 特に本会の活動については格別情熱



ありし日の 山田 幸次氏

を傾けてこられ世話人会には殆んど出席、例会の会場の御世話から司会を担当、『燎原』の寄稿や編集など今にして思えば残された最後の力をふりしほつておられたようでもありました。そして過去を現代にどう生かすか、革新統一への歩みが最も気がかりの様でした。私と山田さんとのつき合いは戦後まもなく京都市役所に入られた頃からで

席、例会の会場の御世話から司会を担当、

『燎原』の寄稿や編集など今にして思えば残された最後の力をふりしほつておられたようでもありました。そして過去を現代にどう生かすか、革新統一への歩みが最も気がかりの様でした。私と山田さんとのつき合いは戦後まもなく京都市役所に入られた頃からで

くの人の知るところであります。

とにかくこれだけの幅の広さと知識と経験を持っている人は数少く、政治家である前の人間としてもまた立派な人でした。

人の悪口はいえない。ウソはつけない。自分でやることは自分でやる。清潔で、誠実で心の暖かい人であります。

下鴨に住んでおられた頃、市役所の労働課の頃、市職の委員長、市会議員の時代などしばしばお目にかかる機会があつただけに思い出はつきません。しかもいつも変わらない人でした。いつも相手のおかれている立場でものを考え、自分の立場からものを考えない真文化人で人の為、大衆の為に自分を押える事の出来る勇気ある人でした。

(3)

去る九月十三日、京都市上京区の立本寺での京都文化人交流会には早くから会場に見えておられましたが、大分身体が弱つてられるようでその会と『燎原』の会合と再三感違いしてされました。それと少し気がかりになつていた矢先、その三日後の『燎原』の世話人会に姿が見えず早速、山田さんの夫人に電話したところ健康がすぐれない由、

「組織に代理はあつても健康と命に代りはないから」と申し上げ、「少し負担を軽くして頑いで医師に診て頂かない」と申し上げておきましたが、それでもお彼岸には弱った体を夫人に支えられないながら智積院の鶴川さんのお墓にお参りされた由であります。

その後間もなく九月二三日安井病院に入院され医師初め病院関係者の献身

(二頁四段へ)

第20回研究例会報告

秋季総会をかねて

清水寺・成就院で！

十月十二日の秋晴れの昼すぎ、清水寺の観光客の雜踏をさけて、大門前の紅葉の染り始めた小径の奥まつた成就院本堂で、本会の秋季総会をかねて第二回定期研究集会が約三〇余名の参加により、盛会に催された。

はじめに、本会の世話人で、常に会の司会進行役をいたいたい山田孝次氏のご逝去を悼み、参加者全員による黙禱を捧げた。

次いで、世話人の木村京太郎氏が、本会は活動を始めてから、今月で一年半を過ぎたが、ここでこれまでの会の運営・活動をふりかえり、今後の方針を、総会において、皆さんの御意見により明らかにして、また来春の京都府知事選についても、率直な意見の交流を深めたい。との開会の挨拶を行なった。

塩田氏は、現在の時局の中心は、内外ともに、戦争か、平和かの重大の岐路に立っていること、全人類史的にみて、全世界秩序の大きな転換期にあることを、サダト・エジプト大統領暗殺事件の各国への反響、欧州における米中性子爆弾配備反対斗争の盛り上り、全世界の軍事費の増大と核兵器保有量などの具体例を引きながら明らかにし、

国内では、「行政」改革・軍拡路線、教科書・学術会議等への政府・自民党

の攻撃の実態、労働戦線の右翼的再編、政党の中道・右寄り路線の進行のもとでの、来春の京都府知事選のも全国的な重大な意義を明らかにされた。質疑、応答、討論の中では、三年前のダブル選挙戦敗北の教訓、近頃の青年層の保守化傾向、教育をめぐる情勢、若者の迷信・オカルト的気分の実態等が出された。

次に知事選についてであるが、今度の選挙選の重大な争点の一つは戦争か、年層の保守化傾向、教育をめぐる情勢等

（前頁のつづき）

的治療もその甲斐なく容態悪化の知らせに家族、党的幹部一同、旧友を初め『燎原』から木村、北牧、カニ江さんなどもかけつけられたものの、十二日午後六時二十五分には、家族に見守られて静かに息を引きとられました。

京都の民主運動を語る貴重な歴史の証人を又一人失いました。まだこのからの京都の平和と民主主義と地方自治を守る上にその活躍が期待されいただけに残念でなりません。

告別式は故人の意志で行はれず出棺の際には清水寺の福岡精道師のお別れの言葉だけ、それでも数百人の人がお別れにかけつけられた事はいかに故人の人柄と功績が大きかったかを物語っています。

ここに会員の皆様と共に山田さんの遺言とも云ふべき『燎原』の原稿をもう一度思い起してその志を受けつぐ事を願ってやみません。（稻田 達夫）



成就院への参道で 石田 昭子

平和か、戦争か、民主主義の一票ではないか、その意味での広範な府民の圧倒的な支持を受けるよう早くとりくみを行うべきである、候補者問題についてはどうなっているのか、会としての対応はどうするのか等の積極的な意見が交流された。

最後に、会の運営について、北牧孝三世話人から、『燎原』の今後についても、参加者の御意見をお聞かせ願いたいの提起がされ、木村京太郎氏から、第三種認可にむけての読者倍増のため会員一人一人が身近の人に紹介してほしいの訴えがなされた。（田山）

(3) 1981年11月1日

原 燥

時局雑感

塩田庄兵衛

(1)

去る十月六日、エジプトのサダト大統領暗殺事件が全世界を衝撃しました。世界の火薬庫といわれる中東の事件が、

第三次世界大戦の引き金になる危険をはらんでいるからです。

しかも人類絶滅の核戦争の脅威が日に増大しています。ストックホルム（スエーデン）の国際平和研究所の、「世界の軍備と軍縮」年鑑の一九八一年版によると、昨一九八〇年の世界の軍事支出は五千億ドル（一一〇兆円）を超えて、史上最高を記録しました。一分間に二億円という計算になります。すでに同年鑑の一九八〇年版はこう指摘していました。

「軍事支出の上昇は不吉な意味をはらんでいる。第一次世界大戦と第二次世界大戦の前には、世界の軍事費ははね上がった。（戦後）期にも、大きな上昇を示したのは朝鮮戦争とベトナム戦争の時であった」。

米・ソ両大国を中心とする核拡の悪循環が急速に核戦争の危険を増大させつてあることについては、昨年秋の国連総会にワルトハイム事務総長が提出した報告「核兵器にかかる包括的研究」にも指摘されています。それによると、今日世界にある核弾頭が、公表された数字によつても四万発を超え、その全威力は広島型原爆の約一〇〇万発分、TNT火薬になると「地球上の

男女、子どもの一人ひとりにたいして、三トン以上に相当する」「人類文化消滅の危険」に私たちに直面していると警告しています。

(2)

アメリカのレーガン大統領は、中性子爆弾のような核兵器の開発・配備によって、ヨーロッパ、アジア太平洋地域などに限定した戦域核戦争を構想しています。これにたいして、西ドイツ・イギリス・イタリア・オランダ・ノルウェーなど、ヨーロッパ各国で、かつてなかつた大規模な核兵器反対の大衆行動がありあがっています。

アメリカでも、レーガンの軍拡路線に反対して、ワシントンで五〇万人の集会がひらかされました。そのなかで日本列島は、三発の核爆弾で全滅するといわれていますが、非核三原則は事实上空洞化するという危険な状態にあります。

日本の国会ではいま、第二次臨時行政調査会の第一次審議答申にもとづいて、行革関連特別法案が審議されています。そのなかには、行革ならぬ軍拡のために、国民の年金、福祉、教育費等の圧縮をはかるものです。日本の自衛隊はすでに二六万人を超えて、世界の第八位の「軍事大国」ですが、「聖城」平洋戦争四十周年です。歴史の教訓をとされる軍事費だけは、来年度七・五ペーセントのアップが前提されており、防衛庁の概算要求によると約二兆六千億円にのぼります。そのうえ、昭和五十八年度以降に支払う予定で、二兆二千億円余の兵器の購入が見込まれています。このローン買いのツケは、遠からず国民の方にまわってきます。大砲かバーナーかということばがありますが、このような軍事費優先の財政・経済政策が、国民生活を圧迫することは明白です。

(3)

このような軍拡路線の背景には、最近の株式現場の乱高下にも反映しているように、資本主義の構造的危機の深化が根本にあります。それが起動力になつて、社会主義国・発展途上国をふくめて世界が激動し、既成の秩序が解体・再編成にむかうという人類史の転換期が進行中です。しかし、軍拡一戦争一破壊では危機の解決策にはなりません。しかも軍国主義の強化は必ず民主主義を圧迫します。教科書攻撃、憲法改悪の策動などがそのあらわれです。

ところが、民社党、公明党などの反共中道政党がこの自民党路線に追随・同調しているばかりでなく、社会党もキッパリとした抵抗の姿勢がとれないでいます。そのうえ、労働戦線統一といいます。そのため、労資一体、反共主義の立場に、労働者と労働組合を追いこんでしまおうという右翼的再編の策動が活潑にすすめられています。太平洋戦争中の産業報国会の現代版といえましょ。今年は、満州事変五〇周年、太平洋戦争四十周年です。歴史の教訓を及ぼすにちがいありません。

(附 記)

本稿は十月十七日、清水寺成就院本堂で開かれた本会第二〇回研究例会で「現代の内外状勢」について、約一時間余りお話しいただいたのを、要約ご執筆ねがつたものです。

塩田先生には、立命館大学教授のほかに全国革新懇、統一労組懇、学術会議議員など当面する重要な仕事を本会設立世話を一人として、万障縁合わせて御話いただいたばかりか、お話を内容を原稿にして下さいとの無理なお願いを、快諾、寸暇を置いて御執筆いただきました。

(4)

清水寺の大西良慶貫主は、「大衆は腕を組む」と揮毫されました。平和と民主主義をめざす人びとは腕を組まねばなりません。憂いを同じくする人びとが起ちあがって、「京都平民懇」が結成され活動しています。全国には「革新統一懇談会」が組織されています。労働戦線での、「統一労組懇」を中心に、労働者の生活と権利を守り、革新統一戦線の結成をめざしたかいが精力的に展開されています。

このような、平和・民主主義・生活擁護と、戦争・ファシズム・生活破壊の二つの道の選択をめぐる対決のなかで、来年春の京都府知事選挙の意義は重大です。戦争の一票か、和平の一票か、の闘いです。そのなりゆきは、京都府民にとってだけでなく、これから日本の進路にとって大きな影響を及ぼすにちがいありません。

「知は力です。」

ネグロス野戦病院記 (1)

—語りつぐ戦争体験—

医療法人岡谷会理事長 岡 谷 実

はじめに

『戦争体験の風化』という言葉や『戦争を知らない世代』という言葉が生みだされてきたように、三十六年の歳月が日本人の脳裏から『戦争』という人間最大の愚行であり悲劇を忘却の彼方に押しやろうとしています。

現在の私たちにとって我慢のならないことは、敗戦 당시에追及の網の目から洩れた戦争犯人の片割れどもが、恥じらいもなく仮面を脱ぎ、軍備拡張を推進し、憲法改悪を煽り、子供たちの教科書から歴史の事実すら抹殺しようと企んでいることです。いまわしい戦争体験の思い出に背を向げず、子に孫に戦争の真実を謙虚に語りつぐことが、いまほど必要な時はないと思います。

(「暮しと健康」第一九七号より)

ネグロス野戦病院の発端

レイテ湾をめぐる攻防が激しく闘われていた昭和十九年の秋、私は補充の兵員とともに、二ヶ月にわたる内地からの輸送船のジグザグの旅を終えてネグロス島に到着した。セブ野戦病院のバコロド分院に軍医見習士官として所属して間もないころ、レイテは米軍の手に陥った。日本軍がフィリピン戦線全域において、もは

や覆いがたく敗退の色を濃くしていることを、私は患者として分院へ受診にくる船舶輸送隊の兵士達の話などから窺い知るのだった。

レイテの陥落でフィリッピン反攻の制海、制空権を握った米軍は、昭和二十年の初頭からルソン島への進攻を開始、一月九日ついにリンガエン湾に上陸した。その次に想定されることはレイテ周辺の島嶼部に残存する日本軍に、掃討作戦の手が延びてくることであつた。

ネグロス島に駐留する兵团が、マンダラガーンの山深く後退し、長期抗戦に備え配置を完了したのは三月末であった。ネグロス野戦病院が発足したのは、この時からである。

それまで各部隊に分れて所属している軍医、衛生兵を集めて編成した野戦病院部隊で、名称だけは立派だが病院とは名のみ、マンダラガーン山のジャングルの茂み深くに急造したいわば粗末な草葺き小屋の集落に過ぎなかつた。予想通り、ネグロス島への米軍上陸は大抵は彼らの中からであった。ジャングルの中で隊列からはずれることは、落伍し、そのまま行方不明になるのは少くない犠牲者を出したながら病院移動は確実に実行された。

十字砲火の野戦病院

これまでの経験では、病院がしばらく同一地点に駐留していると、必ずと運動は確実に実行された。

これは八紘一字、神州不滅、臣道実踐、鬼畜米英、等々をふりかざして、国民の上の上のさばつた、軍国主義者達のなれの果ての姿が、なれ上つた姿なのか、国民の多くは解釈に迷つている。

○

○

軍備を増強しないと、不安があると主張するが、米・ソの両超大国の国民には不安がないと云えるだろうか。軍備の強化だけでは不安は消えない。世界のどの国とも協調してこそ不安を和げると思う。

敗戦のおかげで、平和な文化国家になつた日本、その日本が、ある時期、共存共榮の福音国家の道を歩むかに見えたが。対日政策を大きく変えた米国は日本は防衛を増大すべき多くの日本人は、日本は防衛を増大すべき本は独立国である筈だがと思つた。

防衛と不安全 斎藤雷太郎

えたネグロス島抗戦の暗澹たる前途が思いやられるのだった。

ジャングルの病院移動

最戦線の交戦が激化し前線の配置に変化があると、そのつど所属の旅団指揮部から野戦病院の移動が指令されてくる。わがネグロス野戦病院が発足して以来、四月・五月の僅か二ヶ月の間に既に四度五度に及ぶ移動が強行されていた。

死に直面している重症者や歩行まらない負傷者、独歩可能と認められていとは言え慢性化した栄養失調に足許も定まらぬ患者など、五百に余る傷病兵を抱えてのジャングル行は、それ自身が多く犠牲者を生みだす無謀な行為でもあつた。移動には、各部隊から担架兵が派遣され、重症者と歩行困難な負傷者の担送に当つた。問題はかえつて歩行可能と見做されている独歩患者の場合にあつた。移動の途中で落伍し、そのまま行方不明になるのは大抵は彼らの中からであった。ジャングルの中で隊列からはずれることは、それでも各部隊から担架兵の派遣があるうちは、数少くない犠牲者を出したながら病院移動は確実に実行された。

これは八紘一字、神州不滅、臣道実踐、鬼畜米英、等々をふりかざして、国民の上の上のさばつた、軍国主義者達のなれの果ての姿が、なれ上つた姿なのか、国民の多くは解釈に迷つている。

○

敗戦のおかげで、平和な文化国家になつた日本、その日本が、ある時期、共存共榮の福音国家の道を歩むかに見えたが。対日政策を大きく変えた米国は日本は防衛を増大すべき多くの日本人は、日本は防衛を増大すべき本は独立国である筈だがと思つた。

敗戦のおかげで、平和な文化国家になつた日本、その日本が、ある時期、共存共榮の福音国家の道を歩むかに見えたが。対日政策を大きく変えた米国は日本は防衛を増大すべき多くの日本人は、日本は防衛を増大すべき本は独立国である筈だがと思つた。

追する十字砲火は熾烈さを増すのであつた。五月初旬から中旬にかけての米軍の攻撃は、今までにない激しさを加えていた。病院はジャングルの繁みの蔭に設営され、四本の棒の上に、小枝や雑草を葺き並べた屋根と壁代りの草囲いをめぐらせたもので、それが病棟であり、病室であった。度重なる移動に小屋作りも次第に手抜きされるようになり、雨露を凌ぐことすら不充分なお粗末な物だった。そればかりではない。医薬品・衛生材料はもとより食糧の備蓄も底を突き、もはや医療を遂行する場となり窮屈状態に落ちこんでいた。患者に与える食糧も乏しくなるとともに減り、最後には糙米をそのまま黒く焦がした飯盒蓋一杯の焼米で、手の平に載せると一握りもない量で、それが一日分の食糧になつた。極度に悪化した栄養状態に患者の体力も気力も衰え果て、治療の術もない状態のなかで、死亡してゆく患者は後を断たなかつた。

しかも病院には、新しい傷病患者が次々と運びこまれてくるのだった。迫撃弾の破片に肉を割りとられた負傷兵の生々しい傷口に、一日と待たず白い大きな蛆が湧く、早くも化膿はじめた患部は、やがてみると数を増し群がるように蠢動する蛆の住み家と変わる。

米軍の砲撃は、無防備、無抵抗の病院にも見境なく向かれてくる。樹海の空から不気味な唸りを引きずりながら

迫撃弾は襲いかかってくるのである。单発の砲撃については、少し馴れると弾着の遠近を弾道音で聞き分けることができ、それほど恐ろしいものではなくなる。それだけに、多方向から一斉に発射されてくる十字砲火に曝されたときの恐怖はひとしおである。逃げ遅れ炸裂する破片に傷つき泣き叫ぶ者、至近弾に爆碎され四散する死体、草薙きの病院とその周辺はたちまち阿鼻叫喚の修羅場に一変するのであった。

生と死のはざま・ 雨の日の沈黙

ある日の砲撃で、迫撃弾が病室の小屋を直撃したことがあった。安静に就寝をしていた三人の患者の内の、川の字に枕を並べていた真ん中の一人は無事であったが、両側の二人は即死した。戦場では生死は紙一重の偶然であった。

「戦争は人間を運命論者に変える」とは誰かの有名な言葉であるが、むしろ逆であろう。「戦争が無残な運命に多くの人間を巻きこんでいるのである」私はそう思つた。

『病院は移動すべし、独力で移動できる患者は病院とともに移動せよ。独歩促に唯々諾々と応じようとする者は誰もかの有名な言葉であるが、むしろ逆であつた。指令はそうした野戦病院部隊の果敢無い抵抗に断をくだすものだつた。

『病院は移動すべし、独力で移動できる患者は病院とともに移動せよ。独歩促に唯々諾々と応じようとする者は誰もかの有名な言葉であるが、むしろ逆であつた。指令はそうした野戦病院部隊の果敢無い抵抗に断をくだすものだつた。

八〇〇余のマンダラガン山は雨雲に煙り照準は利かないからである。樹海の底、まるで厚い毛氈を敷きつめたように蘚苔類の密生する地表に、雨水が川をつくり勾配を伝つて病室に浸入していく。天幕布を地面に敷き、みじろぎもせず横たわる重症患者の背中を情容赦なく水浸しにする。急激な温度の降下に大方の軽症患者は、背を丸め、膝を抱えこみ、体温で身を暖めるよう、糞の粉末は、五十名の生命を断つには程遠い量であつた……。私は最後に残

最後の指令・死の行進

五月下旬、旅団司令部から、最終的な移動命令が下つた。それまで幾度か移動を督促されていて、重症患者や独歩不可能の患者を担送する担架要員の派遣がないことを理由に病院移動を引延はしてきたのである。担架要員のない病院移動は、重症患者や独歩不能の患者を捨てて移動することに他ならないからであった。

第21回例会・案内

京都民主運動活動家の夫人の労苦をねぎらう懇談会

る人間、こんな人間たちが社会にはいることが、われわれに大きな不安なのである。(了)

とき

十一月十六日午後一時～五時

ところ 中京区竹屋町通河原町東入る
二階和室

京都都市職員会館『かもがわ』

参考費 一名につき五〇〇円(茶菓代)
京都の民主運動史を語る会

留する兵士たちを集めて、せめてもの別れの言葉を告げた。

『私は君たちと別れて移動する。さ

らに奥地に入るのですが、生き残る確証は何一つない。だが最後まで生き抜くことを考え続けてゆく。君たちも

自ら死に急ぐことはないと考える。も

し地面を這うだけの力があれば、這いつつでも下山しなさい。生きる希望

を捨てなければ、むしろ生き残るために、米軍に捕えられることが早道で

あるかも知れない……。私は医者である

君たちが何としても生き続けることを望む……』と、残留者のための食糧を余分に置いて訣別した。

六月上旬、病院移動の隊列は草葺き小屋の病院を後に、マンダラガン山の奥地に向つて目的地への移動を開始した。(つづく)

父、兼光の思い出(四)

新労農党をめぐつて (3)

細迫朝夫

(1)

第一次世界大戦後の恐慌以来ひきつづく経済危機を深めていった日本資本主義が、さらに世界大恐慌に襲われんとする前夜、一九二九年十一月一日、「新労農党」は結党大会を開き船出した。約一週間まえの「暗い木曜日」十月二十四日、ウォール街での株式大暴落がはじまり、産業合理化・解雇の攻撃は激化した。農業恐慌の嵐も吹きついた。約一週間まえの「暗い木曜日」十月二十四日、ウォール街での株式大暴落がはじまり、産業合理化・解雇の攻撃は激化した。農業恐慌の嵐も吹きついた。約一週間まえの「暗い木曜日」十月二十四日、ウォール街での株式大暴落がはじまり、産業合理化・解雇の攻撃は激化した。農業恐慌の嵐も吹きついた。約一週間まえの「暗い木曜日」十月二十四日、ウォール街での株式大暴落がはじまり、産業合理化・解雇の攻撃は激化した。農業恐慌の嵐も吹きついた。約一週間まえの「暗い木曜日」十月二十四日、ウォール街での株式大暴落がはじまり、産業合理化・解雇の攻撃は激化した。農業恐慌の嵐も吹きついた。

(2) (3)

合法左翼として出発した新労農党は、「協同戦線党」として、いくつかの異ったグループで混成されることは不可避であった。河上先生や父などの意図は前に述べたが、それが党内の圧倒的多数派を形成していたわけではない。階級闘争の激化、共産党およびその支持団体との対立の深化、このような条件のなかで内部亀裂を急速に拡大していくをえない生い立ちを、この党はもっていた。これらの具体的経過をここで辿る余裕はないが、事態の深刻化のなかで、三〇八年八月二十九日、新労農党大阪支部連合会拡大執行委員会は、党が、「労働組合・農民組合の拡大強化の任務を

果し得ず労働者農民の戦闘化の妨害になることを認め、党解消を決議した。

このことを事前に知った父は、大阪の解消運動の成功を期して、党規を無視、当日夕刊に間にあわせて、意見書を公表した。

「……労農党は破壊されたる左翼陣営、左翼労働組合、農民組合の拡大強化を目指して極めて善良なる意図のもとに結成されたるものであった。だが事実は……全国農民組合に於ては左翼の力を二分してこれを弱めた……。労働組合に於ては……二三組合を例外として多くは全協絶対排撃に固定せらるんとしつつある。……この傾向はコミュニケーションテルンが労農党排撃の根本態度を持し、一方労農党が第一主義を押し進め場合に不可避に発生する傾向である。

（3） 共産党再建までの一時的、便宜的政黨であつた舊の労農党が、結党自らの活動を展開するや、自らの拡大・強化を追求する「善意」から、必然的に左翼勢力を分裂させる結果に陥つてしまふ事実と客觀的傾向、この冷感な必然性に直面し、これを凝視せざるをえないかったのである。

これに対しても、河上先生は、党的組織を編成替えすることによって政党的性質を変質せしめて、「發展的解消」をなすべきであるとされていたが、十月二十日、「労働農民新聞」紙上に「發展的解消のために残された唯一の途としての戦闘的解体」と題して、即時解体を主張されるに至った。この経過は河上『自叙伝』に述べられていることも、

周知の通りである。「改造」十月号は、大山郁夫「敗北主義者の解消論」と並べ細迫兼光「労農党解消すべし」を掲載した。

この父の論稿は、さきに発表した意見書の趣旨を具体的な事実をあげて説明したものである。このなかから、「事実は如何に進展したか」の見出しの叙

述の一部を引用しておこう。

「……全協の極めて無力なる地方、もしくは極めて嚴重に善良な意図も守せる指導者の下の組合を例外として、多くは全協絶対排撃の傾向を示し始めているのである。大阪金屬、大阪木材の如きは、例えば岸和田紡績の争議の例に於けるが如く、争議の応援、指導の依頼をうけても、その従業員の中

に全協系の者が居るからという理由で

応援を拒否したるが如き態度を示すに至っている。これらの傾向の発生もありから出て来る結果である。」

（3） 共産党再建までの一時的、便宜的政黨であつた舊の労農党が、結党自らの活動を展開するや、自らの拡大・強化を追求する「善意」から、必然的に左翼勢力を分裂させる結果に陥つてしまふ事実と客觀的傾向、この冷感な必然性に直面し、これを凝視せざるをえないかったのである。

第七回コミニンテルン大会がその政策を大きく転換する以前のいわゆる「社会ファシズム論」への批判、「日本社会のアシズム論」への批判、「日本共産党の五十年」が指摘する当時の共産主義の解消のために残された唯一の途としての戦闘的解体」と題して、即時解体を主張されるに至った。この経過は河上『自叙伝』に述べられていることも、

（4） ともあれ、父は、このあと、政治の最前線から身をひいた。救援会弁護士として東奔西走、誠に席の暖まることがなかった。統一公判はじめ、現在、御健在な老闘士とも、ここで新たな接

(7) 1981年11月1日

原

故井垣次光氏を偲ぶ

大松 勇

戦後京都に在住、各方面に活躍中だった畏友井垣次光氏は、去る六月十二日午前九時過ぎ、女婿の井関諭氏方(左京区一乗寺東浦五〇一一四)にて他界された。享年七三才。

本年四月初め頃風邪から肺炎をおこし、京都府立病院に入院、その後白血病であることが判明、治療の効なく逝かれたが、貴重な人を喪ったことは返す返すも遺憾の極みである。彼には一男一女があつたが、八年ほど前に息子(三〇才)を病氣で亡くし、また夫人(窪田静子氏の令妹)は一昨年脳梗塞で倒れ、彼はその看護のため心身をすり減らし気の毒の至りであったが、夫人は目下前記井関方で小康を得ておる由である。

井垣氏は兵庫県城崎郡竹野町に父弥兵衛氏の次男として、一九〇八年に出生した。父はながら村長の要職にあつた。豊岡中学を経て二七年昭和二)水戸高校文乙に入学、直後社研に入り、一年生後半からは学内のみならず、学外の実践運動にも参加し、地評水戸の労働組合や全農県連の活動に従事した。

翌年一二月水戸高二年の時学校を追われ、さらに四・一六事件に關係、山代吉宗、小幡正雄、田中ウタ等とともに起訴される。関東五地方三五名の被告は控訴審で統一公判を目指し、三〇

午前九時過ぎ、女婿の井関諭氏方(左京区一乗寺東浦五〇一一四)にて他界された。享年七三才。

本年四月初め頃風邪から肺炎をおこし、京都府立病院に入院、その後白血病であることが判明、治療の効なく逝かれたが、貴重な人を喪ったことは返す返すも遺憾の極みである。彼には一男一女があつたが、八年ほど前に息子(三〇才)を病氣で亡くし、また夫人(窪田静子氏の令妹)は一昨年脳梗塞で倒れ、彼はその看護のため心身をすり減らし気の毒の至りであったが、夫人は目下前記井関方で小康を得ておる由である。

井垣氏は満期出獄後は、千葉成夫、小川治雄の諸氏とともに、全協日本鉱山労組の党オルグとして活躍していたが、本富士署に検挙され言語に絶する拷問をうけたがそれにも堪え、鉱山労働者の組織を守つた。一五カ月のたらい廻して著しく健康を害したが、釈放後また党再建のため湘南方面、本所方面の組織をもり立てた。その間鉄工場で負傷を負い、またひどい胃潰瘍のため、遂に但馬の実家に帰り静養することとなつた。

井垣氏は兵庫県城崎郡竹野町に父弥兵衛氏の次男として、一九〇八年に出生した。父はながら村長の要職にあつた。豊岡中学を経て二七年昭和二)水戸高校文乙に入学、直後社研に入り、一年生後半からは学内のみならず、学外の実践運動にも参加し、地評水戸の労働組合や全農県連の活動に従事した。

翌年一二月水戸高二年の時学校を追われ、さらに四・一六事件に關係、山代吉宗、小幡正雄、田中ウタ等とともに起訴される。関東五地方三五名の被告は控訴審で統一公判を目指し、三〇

年一〇月東京控訴院で公判が開廷された。被告会議が井垣氏を司会者とし、議長に山代吉宗氏を推薦して進められるや、弾圧され混乱に陥り、全員分離裁判、保釈取消となり、三一年七月上告棄却、山代、井垣、田中の三名は服役した。

彼は前記統一公判の準備のため上京、救援会事務所や市谷刑務所近くの高台の合宿所に各地方代表とともに集まり、獄中面会や差入れをする一方、救援会の日常活動にも参加協力した。なおこれを契機に山代の関係で渡辺みいの、小幡正雄の弟佐武郎、増田可一郎の妻女(杉浦啓一の息女)、碓井雄三の父雄作、横浜関係の丹慶与四造、目黒電治郎等の諸氏が、救援会富久町事務所によく出入し、大変にぎやかな風景であった。それぞれの人達が救援活動に参画し、また他の重要な仕事に入つていたことは、今なお記憶に新しい。

『旧縁の会会報』(復刊第八号)より
転載

故山田幸次さん

追悼式

去る十月十二日死亡された本会世話を人故山田幸次さんの追悼式が、日本共産党府委員会、日中友好協会、東山民商、東山診療所、東山生会、後援会などによる実行委員会主催で、十月二十八日夜、左京区聖護院、京都教育文化センターで、地元住民、各界代表等四二〇名が参加して行われた。

式は三宅勝氏の司会で、まず梅田勝実行委員長が故人の略歴を紹介、全員一分間の黙禱、来島安子東山診療所長の病歴紹介について、白菊にかこまられた遺靈を前に、安井真道、細野武男、重沢重俊、山口正之、三村義夫、吉田平などの各界代表からありし日の山田ユ

会議員各位からの弔電が披露、山田ユキ夫人から、小さい力ですが故人の遺志についてがんばりますとの謝辞があり、参列者一同献花、午後八時半、つきぬ名残りをこめて閉式しました。

(未完)

(六頁よりつづく)

触が生じたのであつた。新労農問題できびしく父を批判した鍋山、三田村などの転向も概なしには想起できないことも記しておこう。これも私情であろうか。

父は、三二年七月、資金提供問題などで、治維法違反に問われ、翌年有罪判決をうけると、帰郷、暫く執行猶余の身をかこついていた。この事件での裁判記録が保存されている。聴取書を見ると父は、決して自ら語ることはなく

関係者の訊問調書をみせられて、はじめて事実関係を認めていっている。そして、資金関係で河上先生への紹介を紹介したひとのなかに河上先生の名を見出すことはできない。

今にして残念なのは、当時の左翼分裂がなければ、満洲事変ひいては十五年戦争も阻止し得たのではないかと、聞きそびれたことである。しかし、政治には人の生命がかかっている。予審終結決定書には、父が紹介されたときの関係者の訊問調書をつきつけられた時も、頑強に否定し通している。予審終結決定書には、父が求められたときの関係者の訊問調書を

などによる実行委員会主催で、十月二十八日夜、左京区聖護院、京都教育文化センターで、地元住民、各界代表等四二〇名が参加して行われた。

式は三宅勝氏の司会で、まず梅田勝実行委員長が故人の略歴を紹介、全員一分間の黙禱、来島安子東山診療所長の病歴紹介について、白菊にかこまられた遺靈を前に、安井真道、細野武男、重沢重俊、山口正之、三村義夫、吉田平などの各界代表からありし日の山田ユ

故伊藤憲一氏の思い出

北牧孝三

日本共産党が戦後はじめて国会に進出した衆議院議員であった伊藤憲一氏は、占領軍によつて国会をバージされてからも、東京太田区の区会議員として活動し、共産党議員団長をつとめてきた。

一昨年病気のため議員を辞めて自宅療養中であったが、去る十月十七日のう胸と肺炎のため死去しました。

彼の死を赤旗紙上で知ったが、彼の病気を自宅に見舞つたときはまだ元気な姿を見せていたのにこんなに早く別れるとは思いませんでした。もつともっと長命してほしかった人です。

先日、京都の山田幸次氏を失い、いままた伊藤氏を失うことはまことに残念です。

いずれも日本の労働運動や民主主義運動にとつてはかけがえのない実践家でしたし、大衆の信頼も高い人達でした。心から哀悼の誠を捧げます。

京都の山田幸次氏の思い出は、会友稻田氏ほか追悼文を書いて頂いているので、私の盟友である東京の伊藤憲一氏について、ありし日の彼の思い出を申し述べます。

同志の死を悼む

彼は十七才で労働運動に参加し、東京南部の関東合同労働組合の指導をうけた。当時の東京は大正十二年の関東大震災のあと、住むに家なく働くに仕事場のない状態でした。私たちは東京市に「仕事よこせ」の斗いを組織しましたが、青年伊藤憲一さんはその先頭に立ちました。

関東大震災で進歩的な大学教授や学生が本所の貧困者街で、全国の震災カンパで労働セツルメントを設立し青年労働者の教育を行いました。彼も私もこれに参加しました。このセツルで教授と学生からマルクス経済学を学び、労働者の生きる道を学びました。そして労働運動と社会主義への道を理論的に実践的に学びました。そして、共産党に入つて労働運動を日夜たたかいました。

天皇制特高警察は私たちを敵として日夜追いまわましたが、それに屈服することなく闘いつづけました。

伊藤憲一さんは、闘いの中で、逞しい労働者として育てられ、国会議員になつたのでした。

当時は石井鉄工所で働きながら、私はまた市電の労働者として芝浦工場で臨時工として働きながら運動をすすめました。

関東合同労組は私たちが結成した組合でしたが、三・一五、四・一六の天皇制政府の労働者弾圧で、私たち労働者を投獄したのでした。往時を偲び心から哀悼の意を捧げます。

故山田幸次氏を偲ぶ

重本健治

去る十月十四日、故山田幸次氏の出棺式に出席いたしました。当然『燎原』社の方々も参列された事でしようから、

当日の事は省略させて頂きますが、山田氏と小生の長い交友の一端を御報告申上げて、故人の想い出を貴『燎原』の正月であったと思ひます。小生が市水道局配水係（現配水事務所）に勤務し、職員組合の推進部副部長をしていましたが、山田氏は市職中央委員会の議長の正月であったと思ひます。小生が市

申上げて、故人の想い出を貴『燎原』の正月であったと思ひます。小生が市水道局配水係（現配水事務所）に勤務し、職員組合の推進部副部長をしていましたが、山田氏は市職中央委員会の議長として名議長振りを發揮しておられました。

その後小生日本共産党市役所細胞のキャップをするようになり、山田氏が市職委員長に当選され、小生も執行委員の教宣部員として、グレープ活動を活発に行つてゐる頃、特に親しくして頂いた様に思います。

○

その後昭和二四年八月の行政整理に

よつて、京都市労連約一〇〇〇名の首切りがあり、小生マッカーサーの指令によってその中に入れられました。そして首切反対闘争のさ中において、現職の山田委員長の全面的な応援を得て力強く闘つて参りました。

しかし、その後の進駐軍の反動攻勢の前に、地方労働委員会の和解の勧告を受託することになり、水道労組の書記から党的地区委員、府委員会事務局専従へと転々と変つて行きました。そ

の間ににおいて山田委員長の少なからぬ力添えを頂きましたが、遂に山田執行部に対しても大量首切りが行われ、我々のゼネストの力もむなしく執行部も大幅に後退してしまいました。

しかしその後も市役所の良心的な人々の力で、現在も尚容共的市職の幹部が活躍されていることは御同慶に耐えません。

その後山田幸次氏は東山区より市議員として五選され、市会の革新陣営の一員として、又指導者として大いに活躍されたことは、既に皆様の御承知の處であります。

小生は六全協以後、土木技術屋として一介のサラリーマンに帰り、会社勤務についていますが、終始山田一家との交際をつづけており、新しい革命の知識を吸収しつつ今日に至つております。

山田氏は市会を退職されてからも、フランス共産党の『ユマニティ』を入れられて、コソコソと研究をされておられる姿を見て頭が下りました。また『燎原』についても山田氏に推せんされて講読しています。

○

出棺式の当日、小山先輩が涙ながらに「無理をするなど毎日云つていたのに、じつとしておれなくて活躍されたのか命をぢぢめるもとになつた」と云われた言葉が身にしみました。

しかし、山田氏にとって、最後まで人民の為に献身されて倒れた事は本望であったと思います。静かに余生を送るといったことのできない人であつたと推察されます。御冥福をお祈りして擱筆します。

（元京都市職員組合）

井垣次光さんと

山田幸次さんを憶う

渡辺美登

同志の死を悼む

それは山本宣治さんの五十一回忌が花原へ入らなかと呼びかけられました。早速入会の申込をいたしました。

毎月一回の例会を楽しみに『かもかわ』へ通いました。三月一日蜷川先生永遠の旅に御出になる朝、御門前でお逢して「もう何もかもいやになりました」と言いました」と言うと「無理して出なくともいいですよ」と言つて「私もあまり出られないのです」と仰せでした。

その後私が入院したり何かしてお逢出来ぬ内にお亡くなりになつたのを少しも存ぜず、私の『八十三年のあしあと』を送りましたらお嬢様から「先日亡くなりました」と云う御通知に接しました。短いおつきあい乍ら、何となく心に通じあうものがあり、去年の山宣祭に、京阪宇治からお墓まで御一緒したりして、よいもので御冥福をいのりたいと存じます。

今年二月の『貧乏物語』の音読会のあと川端二条からプラプラと京阪三条まで歩きました。後から来た車から山田さんが降りられて「京阪におつきあいします」と御一緒しました。私が、二月十四日には毎年チョコレートを蟻

屋敷であった時のこと、井垣さんに『燎原』へ入らなかと呼びかけられました。早速入会の申込をいたしました。

毎月一回の例会を楽しみに『かもかわ』へ通いました。三月一日蜷川先生永遠の旅に御出になる朝、御門前でお逢して「もう何もかもいやになりました」と言いました」と言つて「無理して出なくともいいですよ」と言つて「私もあまり出られないのです」と仰せでした。

その後私が入院したり何かしてお逢出来ぬ内にお亡くなりになつたのを少しも存ぜず、私の『八十三年のあしあと』を送りましたらお嬢様から「先日亡くなりました」と云う御通知に接しました。短いおつきあい乍ら、何となく心に通じあうものがあり、去年の山宣祭に、京阪宇治からお墓まで御一緒したりして、よいもので御冥福をいのりたいと存じます。

川先生に差上げると言った処、山田さんは声をたててお笑いになり「蜷川さんにはバレンタインのチョコレートか。流石の蜷川さんも苦笑したろうな」と仰せでした。あんまりお笑いになるので「そんなにおかしいですか。先生も私も平気ですよ。あれはやっぱり酒の入った方がうまいよ」なんて仰言るので「先生はお酒をめし上らないから入ってないのを持参したのだけど、来年は入ったのを持ってゆきますから」なんて言つたのを覚えてています。四月の例会の時、稻田さんが先生の思い出を語られたあと、山田さんが「渡辺さんも一言」と言われましたが、私しゃべり出したら明日の朝までかかるから今らくがき帖を中西で刷らせていました。私は尊敬していた方々が御逝去なさいました。蜷川先生、市川房枝さん等は私の尊敬でしたから来るからです」と仰せでした。

昨日の新聞で愕然といたしました。お亡くなりになる夢にも思つていなかつた私は、悔いても悔いても悔い足りないような気がいたします。随分今年は私の尊敬でした方々が御逝去なさいました。蜷川先生、市川房枝さん等は私の尊敬でしたから来るからです」と仰せでした。

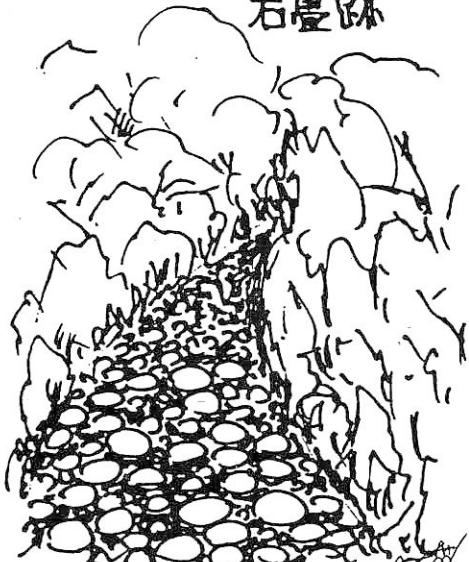
晓の鶴の一聲 孤獨灑し 紅花女 (八一・一〇・一八)

いつもおくれて例会がすんでから来てお逢出来ぬ内にお亡くなりになつたのを少しも存ぜず、私の『八十三年のあしあと』を送りましたらお嬢様から「先日亡くなりました」と云う御通知に接しました。短いおつきあい乍ら、何となく心に通じあうものがあり、去年の山宣祭に、京阪宇治からお墓まで御一緒したりして、よいもので御冥福をいのりたいと存じます。

八月の「平和のための戦争展」に異色の作品を出品して、若い情熱を燃やした、日本美術会会員で、本会のメンバーである伊達義三郎さんが、十月十九日朝、旧東海道気まま旅(ぶらぶら歩記)のスタートを切りました。

上記のスケッチはその第一信!

旧東海道金谷峠 石畳跡



台風24号に追われる様子、東海道気まま旅行を続けています。

旧東海道金谷峠では、一部分だけですが、石畳が保存されている。敷かれている石はすべて丸い形のもので、木曾街道あたりの石畳と異っているのが印象的です。

(東海道金谷宿にて 10.25.)

旧東海道行脚記

伊達義三郎

八月の「平和のための戦争展」に異色の作品を出品して、若い情熱を燃やした、日本美術会会員で、本会のメンバーである伊達義三郎さんが、十月十九日朝、旧東海道気まま旅(ぶらぶら歩記)のスタートを切りました。

奈良でも「運動史を語る会」
奈良 青木康次

平野万吉（下京区）残念ですが所用のため欠席させていただきます。次回からは万障織合せ出席の予定でございます。先輩諸兄の御健勝を心よりお祈り申上げます。

○ 横村庄一郎（下京区）先日欠号分をお送り頂き、おかげで『燎原』の全号を揃え綴ることができました。毎号『燎原』の全文を読んでおります。

○ 大原健次（左京区）松山事件の現地調査参加のため、清水寺での会合には欠席の止むなきに至りました。

○ 伊藤督太郎（下京区）十七日は下京区の民商定期総会準備で、常任理事以上役員留任を確認のため、事務局長と同行、常任理事宅を訪問することになつていますので欠席いたしました。

○ 青木幸次郎（南区）丁度十月十六・七日は組合の中央委員会で出席できません。申訳ありませんがよろしく。

○ 田中豊蔵（南区）参加したいのですが、老令で腰痛み、歩行不自由ですのが、欠席させて頂きます。

○ 田北亮介（北区）毎度御案内頂き感謝致します。当日は広島大学にて学会が開かれますので、欠席させて頂きます。

○ 細迫朝夫（北区）宇治で母連に話を頼まれていますので失礼します。

○ 荘立明（左京区）当日近弁連（近畿弁護士会連合会）出席のため欠席いたします。皆さんによろしく。

○ 足羽徳（左京区）所用のため欠席、いま大切なことは「行革は戦争の予告である」ということでしょう。会のご発展を祈ります。

○ 岡部利良（左京区）健康上の理由で欠席します。

○ 田村敬男（左京区）当日信州伊那谷光の園で、養護老人ホーム寮母研修会が開かれ出席することになっていますので欠席します。

○ 岩井忠熊（右京区）総会の成功を祈ります。

○ までの役割を考えると「代表者名簿」から名が消えるのがつくと思われます。

○ 考えられないでしょうか。故人のこれまでの運命史を語る会では、一人に語らうのではなく、反対の立場にあった者を含めて、二人をゲストに迎えて語らせないと、大へん間違った語り部の証言となります。御注意を乞う。

○ 梅田晶三（左京区）毎号の『燎原』心待ちに読ませていただいます。勤務の都合で毎月例会にも一度も出席できず申訳なく存じます。諸先輩の貴重な体験を学び今日の厳しい情勢下、わが身をひきしめなければ決意しています。

○ 松永栄（山科区）世界の平和のために地道な活動を望みます。

○ 桐剛吉（右京区）仕事の都合で出席できません。例会のゲストに高令の方が多いため、夜分の開催は無理だうと思いますが、せめて年に二、三回ぐらいは休日を利用していただければ職場の友人や若い労働者を説くと思います。ご一考下さい。

○ 世話人の方々には大変ご苦労さまであります。会の性格からいって、故人となられた世話人（品角氏、井垣氏、山田氏など）の名を何らかの形で顕彰の措置が考えられないでしょうか。故人のこれまでの役割を考えると「代表者名簿」から名が消えるのがつくと思われます。

○ 西尾雅七（伏見区）秋期総会に出席の返事を出しましたが、開会時間が変更になり、午後一時からでは、他に出席すべき会合に差支えることになりますので欠席します。

○ 岩井忠熊（右京区）総会の成功を祈ります。残念ながら、大学の用務で失礼してしまいます。残念乍ら公務で出席できません。

○ 天野和夫（右京区）毎回ご連絡を頂きます。各位によろしくお伝え下さい。

○ 田中一男（右京区）いろいろお世話をありがとうございます。当日は勝手ながら欠席させさせていただきます。

○ 小川広之介（八幡市）今川市長の〇B職員の招待会あり欠席。今の方針で運営されて結構でしょう。（東対会程度までは含んで）多數の意志が可成り大きくなることは必然でしょう。むつかしいことですが配慮されること（最大公約数？）を望みます。皆さんによろしく、成人として戦争の中に生きてきたことを語りあつて！

○ 寿岳章子（向日市）民衆が歴史を作りたいと思います。それは可能だという

○ 加藤護一（東山区）『燎原』はホントに楽しく毎号読ませて頂いています。

燎原

ことは、すでに京都の歴史の中に感じさせて頂いていますが、くりかえそうとする歴史をくりかえさせてはならぬと、しみじみ思います。

○ 清水定平 (向日市)

大正十三年より農民運動、無産者新聞配達を致した昔日を思い出し、民主運動史を語る会に参加させて頂き、昔日の同志と「燎原」を通じて、会合に参加できる嬉しさで感謝致します。

十月十七日は、大正八年小学校同生の会が、郷里小浜で行われ、すでに参加の約束をしたので、欠席をお許し下さい。

○ 奥田昭治 (長岡京市) 十月四日の投票の長岡市議選に対し大きな御支援をいただき、ありがとうございました。おかげきまで、六名全員当選を果すことが出来ました。公約の実現は勿論、来春の知事選勝利のため議員団は全力をあげてがんばります。今後も御指導御支援を心からおねがいします。

○ 伊東剣之丞 (吹田市) 病気療養中につき欠席します。皆様の日頃からの御活躍、誠に感謝に耐えません。「燎原」で旧知の人びとのことが偲ばれて、懐しい思い出に耽ることがあり、又きびしい時局の批判もあって、大変有意義に読まして貰つています。今後とも皆様の御奮闘を心からお祈りいたします。

○ 高田鉱造 (豊中市) 大阪での「労連史研」(大阪労働運動史研究会) 十月例

会準備のため、残念ながら欠席します。
○ 城ゆき (吹田市) いつもお世話になります。今回は勝手ながら欠席します。「語る会」の発展を心から願つて!

○ 村中嘉明 (石川県小松市)

第八次研究例会の報告を読みました。清水寺の福岡精道師のお話を感銘したので、是非参加したかったが、十月十五日から十八日まで旅行しますので残念です。

十月十七日は、大正八年小学校同生の会が、郷里小浜で行われ、すでに参加の約束をしたので、欠席をお許し下さい。

○ 平井重太郎 (旧名斎藤民之助 福岡市) 折角の御案内に出席いたしましたが、医師から、未だ旅行の許しがなく、遠慮させて頂きます。

○ 神谷信之助 (近藤忠孝 衆議院議員、寺前いわお 日本共産党、梅田勝、有田光雄

一九八二年の年頭に 決意の年賀状を (募集)

来る一九八二年より、約六〇年前の一九二二年(大正十一年)は日本の歴史上画期的な年でした。

同年三月三日幾百年の間差別と迫害に虐げられた部落民は「全国水平社」に団結して決起しました。

同年四月九日には、地主のあくなき搾取に苦しむ農民が「日本農民組合」に結集し、さらに同年七月十五日、労働階級の前衛「日本共産党」が誕生して、資本家・地主の政府と闘いをはじめました。

このことは、当時の日本資本主義社会の危機を反映し、当時の全日本無産階級が団結して、支配階級の弾圧と闘つたが、それを十五年戦争にすりかえらねお「燎原」については誤字、脱字がないようにして下さい。

○ 料金は一名 三、〇〇〇円です。

その年賀文として「住所、氏名、年令、電話と、決意の本文を添えて、一人、一五〇字以内で、同封の振替貯金用紙を利用して御申込み下さい。料金は一名

なお、この新年号は一六〇二〇頁の倍大号として十二月二十五日頃に発送、年内にお届けしたいので年賀広告申込期日の十二月十五日を厳守願います。また、本新年号を同志への年賀状として広く活用して頂くために、刷増し「臨調路線」紛糾、知事選勝利を目指して、共にがんばりましょう。

参議院議員、市川正一、佐藤昭夫 神谷信之助、近藤忠孝 願い申上げます。

なお、この新年号は一六〇二〇頁の倍大号として十二月二十五日頃に発送、年内にお届けしたいので年賀広告申込期日の十二月十五日を厳守願います。

また、本新年号を同志への年賀状として広く活用して頂くために、刷増し「臨調路線」紛糾、知事選勝利を目指して、共にがんばりましょう。

参議院議員、市川正一、佐藤昭夫 神谷信之助、近藤忠孝 願い申上げます。

一九八一年一月

京都市左京区東竹屋町川端東入

部落問題研究所内

京都の民主運動史を語る会

機関誌「燎原」発行所

日頃のみなさまのご活躍、心から敬意を表しますとともに、八一年秋季総会のご盛会をお祈り申しあげます。

『燎原』を読んで

東京 緑屋 寿雄

(1)

小柳津兄、御元気のご様子で結構です。『燎原』でのご報告を感概深く拝読しました。

十二月十六日の山宣追悼会のことですが、これは午前中墓前祭、夕刻から宇治の昭和館と、京都の新聞会館の二ヶ所で演説会をやった記憶があります。

会員誌だより

芦田君、京都の「民主運動を語る会」の機関紙『燎原』第十九号での貴兄の手紙を読んでなつかしいのでお便りします。

まず元気で何よりも貴兄の手紙を読んでなつかしいのでお便りします。

河上さんのお手紙を読んでなつかしいと思います。

河上さんのメッセージを代読した記憶がありますので、多分細川さんは昭和館の方で読まれたものか、あるいは、大兄の記憶ちがいかと思います。昭和館の方の司会は、田村敬男さんに委しましたように思います。

(台東区三ノ輪一ノ一七ノ二栄荘)

民主運動について

京都 和田 洋一

昭和初年の共産主義運動、あれを広い意味での民主運動とみなすことに異存はありませんが、何よりも革命運動であつたはずで、その点をあいまいにしようとする人が多いのが気になります。われわれの「民主運動史を語る会」で、ぜひ意見をたたかわせたいと願っています。

(左京区下鴨下川原町四六)

一度考え方直してみたい

京都 西村 清三

この会(語る会)のそもそもものもとは伏見の老年会より出発、本来の意味はその後の『語る会』に解消したもので、差し当り九条のセツルメントで話合った時点を想起します。

それで第十八号までのいろいろ語られた記録を見ますと、時期的にまちまちの感があり、『民統』も重要な史実であり、記事は実際に要を得て簡見事な文章と感じているのですが、まだまだ『民統』へ行くまでに、特に非合法整理して時間的に順を追つて、もう一度考え直して行きたいと考えます。

河上さんのお手紙を読んでなつかしいと思います。

河上さんのメッセージを代読した記憶がありますので、多分細川さんは昭和館の方で読まれたものか、あるいは、大兄の記憶ちがいかと思います。昭和館の方の司会は、田村敬男さんに委しましたように思います。

(台東区三ノ輪一ノ一七ノ二栄荘)

歴戦のプロレタリアより

南区 田中 豊藏

小生五七年間「自由と平和」、民主

主義を守るために戦い、若い時から遠洋航路の船員となり、海外で労働運動

を学び、大正十年内地に帰り、神戸川崎争議に参加後、京都に帰り、梅小路の駅仲仕となり、評議会に加入、大小の争議に参加し、常にビラ張り、ビラ撒きに動員されて、特高に目をつけられ何回となく検束された。

三・一五事件以後は苦しみの連続で召集で又苦しみ、残された家族の苦しめは言葉につくせません。

戦後自由に働く事ができたが、失業と食糧難の連続で妻や子供の苦しみには頭が下ります。成人した三男一女は今は理容店をやっています。歴戦のプロレタリア老兵です。

会費(三、〇〇〇円)誌代(二、〇〇〇円)カンパなど、左記の各位から御送金いたきました。御礼申上げます。(順不同、敬称略)

記

近藤 三郎(下京)

正木 通夫(大阪)

鴨脚 光増(大阪)

黒田 了一(大阪)

岡野 正(札幌)

永良己十次(西京)

大槻 幹郎(宇治)

鶴見 倫(神戸)

小泉 正人(左京)

伊吹良太郎(右京)

五辻英一郎(中京)

杉原 順(伏見)

斎藤 英三(中京)

福岡 精道(東山)

大橋 隆憲(右京)

米田貞一郎(北区)

田中 豊藏(南)

飯田助左衛門(北)

杉山 康(宇治)

京都民報社(中京)

門脇 稔三(右京)

桑原 英武(大阪)

片山 康行(城陽)

北福西町二丁目二九番地の六
電話〇七五ー三三二一五七六七番
(注)洛西ニュータウン南福西バス
停下車二分 竹林公園入口前

転居のお知らせ

寺前 いわお

一段と秋の深まる季節を迎えたが、皆さまお元気のことと存じます。さて、私は下記に転居致しましたのでお知らせします。

二十年間住みなれた真如堂を離れることは淋しい気もしますが、新居は竹林公園に向いにあるなど過しやすいようです。近くにお出での際は、ぜひお立ち寄りください。

(六一〇一一一) 京都市西京区大枝

(以下次号)